

南無妙法蓮華經

因陀羅

南無妙法蓮華經は、教主釈迦牟尼世尊、中天竺摩訶陀國王舍城の靈鷲山に居して、出世の本懷として最後八カ年の間に説かせたまひしサツダルマ・ブンダリキヤ・スートラの肝心題目であります。

教主釈尊一代の化導円熟して、十界の衆生万機漏らすところなく、皆ことごとく無上正覺を証得するに至りました。併しながら仏滅度後の一切衆生、就中二千年を過ぎて閑靜堅固と呼ぶる、全世界を挙げて戦争殺人の行わるる末法惡世の時代の人類を怒れんて、もうもろの衆生をして戦争の恐怖を離れ、殺人の暗黒から護らんがために、サツダルマブンダリキヤ・スートラの肝要を一言に結び、付囑の弟子を定めて、この患難の娑婆世界に留めおかせ給ひし良薬が、則ちこの南無妙法蓮華經の五字七字の題目であります。

南無妙法蓮華經は心に信じ、口に唱え、唱え導くことに由て現代の人類、一切衆生を利益するものであります。今更これを解説し、教訓するのは徒らに蛇足を添うるに過ぎませぬ。されど小児が砂を聚めて仏塔をつくる戯れも亦菩薩の道を行ずることになると聞けば、古聖賢が残せし研鑽の枝折を尋ねて、仏道を求むる人のために、聊か南無妙法蓮華經の随力演説を許していただきます。

平和は仏陀世尊の御手にあります。是れを仏法と申します。仏法を褒美して妙法と申します。妙法を譬うるに蓮花をもつてします。この蓮花は正に咲き栄えたる蓮花であります。これを妙法蓮花と申します。妙法蓮花は古今不変の真理正法であります。天魔破旬もこれを変えることはできませぬ。たとえ千仏世に出てたもうとも、これを改むることはありません。この変わらざることを經と申します。妙法蓮華經は本来尊重の法であります。礼拝供養の対境であります。これを南無

妙法蓮華經と申します。

平和は元來、我等衆生己心の心性の法則であります。これを心法と申します。心法を褒美して妙法と申します。心法を譬うるに蓮花をもつてします。この心法の蓮花は、未だ開かざる蓮花であります。希には半ば開ける蓮花もあります。これを妙法蓮花と申します。この心法の妙法蓮花は我等衆生が日々に通作するところの、無明煩惱の諸惡業の中に在つても、未だ曾つて煩惱に染まらず、惡業に汚されませぬ。この汚染されざるところを經と申します。

己心の心性の妙法蓮花の花を開かしめんがために口に呼び頭わして恭敬供養いたします。これを南無妙法蓮華經と申します。この時は南無妙法蓮華經は個人的色彩が濃厚であります。

平和は元來、衆生世間の生存の法則であります。これを衆生法と申します。衆生法を褒美して妙法と申します。この衆生法の妙法を譬うるに蓮花をもつてします。これを妙法蓮花と申します。この衆生法の蓮花も亦、未だ開かざる蓮花であります。希には半ば開きたる蓮華もあります。すでに開きたる蓮花もあります。この衆生法の妙法蓮花は、甚だ広汎にして、善惡苦樂、生滅隨順、流轉昇沈等万様万差の諸法、天地宇宙、森羅万象がことごとく皆、平和を求める活動の実相であります。斯のことごとく万象を通じて一貫せる平和の法則を經と申します。

この衆生法の妙法蓮華經を開かしめ、衆生世間に平和を實現せしめんがために一切衆生に平和の法則を信受せしめねばなりません。これを南無妙法蓮華經と申します。この南無妙法蓮華經は世界平和建設の大方針となります。この機能を立正安國とも申します。

この立正安国の南無妙法蓮華經は、国家的、社会的、民族的、世界的にその利生を拡大いたします。もし国家社会乃至世界の機能に、この宗教的建設要素を欠いても差しつかえが無いという時に、そこには開閉堅固、人類絶滅の悲劇が起ります。現代世界の諸国家、諸社会の苦悩と暗黒とは則ちそれでありませぬ。

仏法は甚だ高遠にして、古今誰も到達し、証得する者はありません。人間世界に甚だ希有に、この仏法を証得したる者を仏陀世尊と尊称いたします。釈迦牟尼世尊はこの仏法を証得したまへる唯一の人であります。この釈迦牟尼世尊を南無妙法蓮華經と称して礼拝恭敬いたします。この釈迦牟尼世尊則ちこの南無妙法蓮華經は、人類世界平和の本尊にして、宗教的信心の対境であります。ガンディー翁のいわゆる真理と神との相即不離の關係を、人法一如の南無妙法蓮華經として口に唱え、身に礼拝する所以であります。

仏法の妙法蓮華を、衆生に解し易からしめんがために譬喩をかります。これを譬喩の蓮華と申します。併しながら仏法の妙法蓮華は、則是当体蓮華であります。

衆生法は甚だ広汎であります。いかに広汎なればとて、盲目的に蠢動している物ではありません。秩序整然として大は星雲、小は原子核、皆その位置に列なり、因果歴然として一糸乱れませぬ。人間の社会生活も、個人家庭乃至国民世界にいたるまで、この善惡邪正、興亡盛衰、破壊建設みなその規則は一貫せる事、歴史の証明するところであります。これを衆生法と称します。この衆生法は随順すべく尊敬すべく、礼拝すべきものであります。これを南無妙法蓮華經と申します。衆生法は広汎錯雑にして、しばしば衝突し苦悩します。是において衆生法の本性清浄なることを解し易からしめんがために譬喩を藉て妙法蓮華と申します。一切衆生が口に南無妙法蓮華經と唱うる時、この譬喩の蓮華は則ち当体蓮華となります。

「我此土は安穩にして、天人常に元満せり」と説かれたる經文はその様相であります。

我等衆生の己心の心法は、介爾心あれば三千を具すと説かれてあります。仏法のごとく高遠ならず、衆生法のごとく広汎ならず、甚だ近く、甚だ狭いところに在ります。而もこの心法は高遠なる仏法に通達し、且つ又広汎なる衆生法に遍満するものであります。一人の己心の心法が、真実に南無妙法蓮華經の花開き、譬喩の蓮華が則ち当体蓮華となる時、その利益は地理的制限を超え、万国に亘つて平和建設の基礎となり、時間的制限を超えて、古今に通じて歴史的發達を遂げしめます。

「一仏成道して法界を觀見すれば、草木国土悉皆成仏す」高遠なる仏法妙と、広汎なる衆生法妙と、卑近なる心法妙とを合わせて三法妙と称します。三法妙は本来南無妙法蓮華經の一法妙であります。南無妙法蓮華經の一法妙の本尊を、我等衆生をして信受せしめ、修行せしめんがために、且らく三妙法を別開せるものであります。

我等が己心の平和を求めんがために南無妙法蓮華經と唱えねばなりません。我等が国家、世界の平和を求めんがためにも南無妙法蓮華經と唱えねばなりません。我等が宗教的に平和の本質を顕現せんがために南無妙法蓮華經を唱えねばなりません。

南無妙法蓮華經

(インド・パトナの印日文化協会において)